

インド

主要データ

国名〔英名〕	インド〔India〕
面積(km ²)	3,287,263
海岸線延長(km)	7,000
人口(百万人)	1,266.9
人口密度(人/km ²)	385.4
GDP(十億 US\$)	2,251.00
一人当り GDP(US\$)	1,776.80
主要鉱産物：鉱石	ボーキサイト、クロム、マンガン、亜鉛
主要鉱産物：地金	アルミニウム、銅、亜鉛
鉱業管轄官庁	鉱山省(Ministry of Mines)
鉱業関連政府機関	地質調査所(GSI: Geological Survey of India)、鉱山局(IBM: Indian Bureau of Mines)
鉱業法	新鉱山鉱物(開発規制)修正法令(Mines and Minerals (Development and Regulation) Amendment Ordinance, 2015) 国家鉱物政策(National Mineral Policy 2008)
ロイヤルティ	Notification No. G. S. R. 630(E)
外資法	外国為替規制法(1999)
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	森林(保護)法(Forest (Conservation) Act, 1980)
鉱業公社	National Aluminium Company Ltd. (NALCO)、Hindustan Copper Ltd. (HCL)、MOIL Ltd.、Indian Rare Earth Ltd.、 鉱物探鉱公社(MECL: Mineral Exploration Corporation Ltd.)
鉱業活動中の民間企業	Vedanta Resources Plc.、Hindalco Industries Ltd.、 Hindustan Zinc Ltd.
近年の鉱業関連問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	新鉱山鉱物(開発規制)修正法令 2015 において、鉱区入札、基金設立義務、手続き簡素化、非合法鉱業活動規則強化などが付加された。2014 年 9 月にロイヤルティを引き上げ。
2016 年のトピックス	2016 年 6 月に国家鉱物探査政策(NMEP)を策定。鉱業からの収益分配による国家収入の増加や、透明性のある入札プロセスによる鉱区割り当てについて規定したもの。

1. 鉱業一般概況

(1) 全般

インドの鉱業は、小規模鉱山が多数存在することが特徴的であり、インド政府が報告を受けて把握している 2016 年度(2016 年 4 月～2017 年 3 月：出典では”2016-17”と表記)の鉱山数(マイナーメタルを除く)は、1,899 件であり、前年度の 2,100 件より減少している。鉱山は Madhya Pradesh 州(231)、Tamil Nadu 州(208)、Jharkhand 州(203)、Gujarat 州(178)、Odisha 州(150)、Chhattisgarh 州(143)、Karnataka 州(137)、Maharashtra 州(133)、Andhra Pradesh 州(106)、西 Bengal 州(100)、Telangana 州(82)、Goa 州(80)、Rajasthan 州(79)の 13 州に集中しており、全体の 96%を占める(カッコ内の数字は鉱山数)。

2015年度、インドの鉱業生産におけるパブリックセクターの生産価値は1兆7,012億ルピーで全体の72.65%を占めている。パブリックセクター及びそのジョイントベンチャーでは、銅鉱石及び精鉱、ダイヤモンド、螢石、セレン及び硫黄の採掘・回収を主体としている。2015年度でのプライベートセクターの占める割合は、金99%、錫精鉱で68%、マグネサイト56%、黒鉛67%となっている。

インドの鉱物資源は豊富で、石油、石炭、鉄鉱石などのコモディティだけでなく、ボーキサイト、クロム、マンガン、鉛・亜鉛、銅などがあり、そのうち、ボーキサイト、クロム鉄鉱は世界第4位、亜鉛スラブ、アルミニウムは世界第5位、銅（精錬済み）は世界第6位、マンガンは世界第7位の生産量（2014年ベース）となっている。なお、鉄鉱石も世界第4位である。

(2) 鉱種別

① 鉄鉱石

2015年度の鉄鉱石生産量は156百万tで、前年度の129百万tより約20%増加した。各州別の生産量は、Odisha州が51%と過半数を占め、次いでKarnataka州が16%、Chhattisgarh州が16%、Jharkhand州が12%、Andhra Pradesh、Goa、Madhya Pradesh、Maharashtra、Rajasthan各州の合計が残り5%となっている。生産量の約39%は公共セクター（鉱業公社）によるものである。報告を受けた鉱山は、前年度の320鉱山から297鉱山に減少した。

② ボーキサイト

ボーキサイトの生産量は2,813万tで、前年度の2,223万tから約27%増加した。各州別の生産量は、Odisha州が38%、次いでGujarat州が36%、Jharkhand州が7%、Chhattisgarh州が7%、Maharashtra州が7%、Goa、Karnataka、Madhya Pradesh、Tamil Nadu各州の合計が残り5%となっている。生産量の約24%は公共セクターによるものである。報告を受けた鉱山は177鉱山あり、うち10鉱山が公共セクター所有鉱山である。

③ マンガン

マンガン鉱石の生産量は214万8千tで、前年度の234万5千tから約9%減少した。各州別の生産量は、Madhya Pradesh州が36%、次いでMaharashtra州が29%、Odisha州が18%、Andhra Pradesh州が9%、Karnataka州が7%となっている。生産量の50%以上が公共セクターによるもので、報告を受けた鉱山145鉱山中の23鉱山でこれを生産している。

④ 鉛・亜鉛

鉛及び亜鉛鉱石の生産量は合計104万5千tで、前年度から約12%増加した。州別ではRajasthan州の生産量が100%となっている（鉱石、精鉱すべて）。報告を受けた鉱山8鉱山すべてが民間セクター所有である。また、鉛精鉱の生産量は14万3千tで、前年度より約33%減少した。

⑤ 銅

銅鉱石の生産量は390万8千tで、前年度から約11%増加した。報告を受けた鉱山5鉱山すべてが公共セクター所有である。また、銅精鉱の生産量は前年度より32%増加した。

⑥ 金

金鉱石の生産量は53万5千tで、前年度から約23%増加した。州別ではKarnataka州の生産量がほとんどとなっているが、報告を受けた鉱山5鉱山のうち3鉱山が同州、残りはAndhra Pradesh州、Jharkhand州が各1鉱山であった。また、金地金の生産量は1,323kgであった。

2. 鉱業政策の主な動き

(1) 鉱業政策と鉱業法及び規則改正

インドの鉱業政策は、2008年3月に策定された国家鉱物政策(National Mineral Policy 2008 : NMP 2008)による。NMP2008は、中央政府及び地方政府の役割の変更、探査及び鉱業におけるプライベート

セクターからの投資促進、鉱業権付与における確実性と透明性の確保、鉱業エリアでの地元住民保護を伴う持続的発展に資する科学的鉱業の促進、を取り決めている。

NMP2008に基づき、政府は2015年1月12日に、MMDR 修正令 2015 (MMDR Amendment Ordinance, 2015) を発効した。この修正によって、①競争的入札による鉱業コンセッションの付与、②既存のリース期間延長の有効、③鉱業活動による人民及び地域の利益還元のための地域鉱物基金の設立、④広域調査及び精密調査を目的とした国家鉱物探査信託基金の設立、⑤鉱業コンセッション付与に関する手続きの簡素化及び手続き期間短縮、⑥非合法鉱業活動取締のための規則の強化、が付加された。

MMDR 修正令 2015 の制定に伴い、これに付随する鉱業規則の改定が行われた。鉱物（含有量）規則 2015、鉱業（入札）規則 2015、鉱物（国営公社による開発）規則 2015、非排他的予備調査許可規則 2015、国家鉱物探査信託規則、などが規定されている。

その後、2016年6月、政府は国家鉱物探査政策（NMEP）を明らかにした。同政策では、鉱業からの収益分配による国家収入の増加や、透明性のある入札プロセスによる鉱区割り当てについて定めている。まず、探査のため、鉱区はブロック単位に整理され入札にかけられる。探査の後、当該ブロックは開発のために政府からリースされるが、これらも入札にかけられ、落札した鉱業権者はインド政府にロイヤルティを支払うこととなる。収益分配については、鉱業リース期間に一括あるいは分割して支払う形式を選択できる。国内探査促進のため、鉱山省は国家鉱物探査基金（NMET）を設置しており、鉱業権者は当該基金に、政府に支払うロイヤルティの2%に相当する額を支払うことになっている。

(2) ロイヤルティの改正

2014年9月1日に改正されたロイヤルティ率が最新である。従量制、従価制ともに、以前より価格及び比率が上がっている。主なものは以下のとおり。

表 2-1. 主要鉱種のロイヤルティ

鉱物	新(2014年9月制定)
ボーキサイト	<ul style="list-style-type: none"> ・製錬グレード Al 含有量(アルミナ又はアルミニウム生産用途を除く)に対し LME アルミニウム価格の 0.6% ・非製錬グレード 売価(アルミナ又はアルミニウム生産、輸出用途を除く)の 25%
クロム鉱石	売価の 15%
銅	Cu 含有量に対し LME 銅価格の 4.62%
金	<ul style="list-style-type: none"> ・一次生産物 鉱石中の Au 含有量に対し、ロンドン貴金属市場協会 (LBMA) 価格の 4% ・パイプロ 製造されたパイプロ中の Au 含有量に対し、LBMA 価格の 3.3%
鉛	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱石中の Pb 含有量に対し LME 鉛価格の 8% ・精鉱中の Pb 含有量に対し LME 鉛価格の 14.5%
亜鉛	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱石中の Zn 含有量に対し売値ベースで LME 亜鉛価格の 9.5% ・精鉱中の Zn 含有量に対し売値ベースで LM 亜鉛価格の 10%
鉄鉱石	売価の 15%
マンガン鉱石	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱石：売価の 5% ・精鉱：売価の 1.7%

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表 3-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2014年 (千 t)	2015年 (千 t)	2016年 (千 t)	対前年増減比 (%)	世界シェア (%)	ランク (位)
鉛	105.1	138.7	138.9	0.1	3.0	7
亜鉛	728.6	825.7	649.0	-21.4	5.0	6
ボーキサイト	20,688.0	26,383.0	24,219.0	-8.2	8.9	5
クロム	3,368.0	2,612.0	3,337.6	27.8	9.8	4
マンガン	2,447.0	1,644.2	2,210.9	34.5	3.7	5
チタン	124.8	125.0	125.0	0.0	2.7	13
鉄	139,400.0	142,500.0	178,559.0	25.3	5.4	4
ウラン(t)	385.0	385.0	385.0	0.0	0.6	11

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2017)

(2) 主要金属地金生産量

表 3-2. 金属地金生産量

鉱種	2014年 (千 t)	2015年 (千 t)	2016年 (千 t)	対前年増減比 (%)	世界シェア (%)	ランク (位)
銅	764.5	791.9	768.2	-3.0	3.3	7
鉛	477.0	496.3	508.3	2.4	4.6	4
亜鉛	700.0	817.3	611.8	-25.1	4.5	4
ニッケル	2.0	1.9	0.3	-82.3	0.0	23
コバルト(t)	100.0	150.0	100.0	-33.3	0.1	16

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2017)

(3) 主要金属消費量

表 3-3. 金属地金消費量

鉱種	2014年 (千 t)	2015年 (千 t)	2016年 (千 t)	対前年増減比 (%)	世界シェア (%)	ランク(位)
銅	434.2	491.4	499.3	1.6	2.1	9
鉛	521.2	538.6	566.8	5.2	5.0	4
亜鉛	638.2	611.5	672.4	10.0	4.8	3
錫	11.9	8.7	9.1	5.0	2.4	7
アルミニウム	1,522.8	1,476.3	1,377.6	-6.7	2.4	6
ニッケル	27.0	37.1	57.4	54.7	3.1	7

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2017)

(4) 主要金属輸出入

表 3-4. 主要金属輸出入

鉱種	2014年 (千 t)	2015年 (千 t)	2016年 (千 t)	対前年増減比 (%)	主な輸出相手国
銅					
鉱石	13.9	0.0	34.2	4,310,286.8	中国、韓国
地金	361.5	340.7	305.0	-10.5	中国、サウジアラビア
鉛					
鉱石	0.5	0.0	0.0	-43.3	バングラデシュ、スリランカ
地金	56.3	61.6	51.7	-16.1	米国、韓国、ベトナム
亜鉛					
鉱石	0.0	0.6	0.3	-55.0	中国
地金	173.6	311.1	175.2	-43.7	UAE、中国、イタリア

世界の鉱業の趨勢 2017

錫					
鉱石	0.0	0.0	0.0	-100.0	米国
地金	1.2	2.5	1.1	-57.4	シンガポール、UAE
鉄					
鉱石	9,504.5	4,126.5	21,697.5	425.8	中国、オマーン、日本
アルミニウム					
ボーキサイト	5,399.7	7,490.7	2,929.4	-60.9	中国、クウェート、エストニア
アルミナ	1,657.9	1,501.4	1,534.9	2.2	UAE、中国、エジプト
コバルト(t)					
鉱石	0.0	0.1	0.3	284.4	オランダ、スリランカ
マット	71.4	13.2	48.7	269.1	UAE、米国、イラン
化合物	2.4	3.5	1.1	-68.3	イラン、ネパール
マンガン					
鉱石	33.0	0.3	0.3	-12.9	オランダ、トルコ、ネパール
フェロマンガン	224.0	157.7	130.4	-17.3	UAE、イラン、パキスタン
フェロシリコマンガン	900.6	773.9	619.2	-20.0	日本、イタリア、台湾
クロム					
鉱石	73.4	71.8	207.2	188.4	中国、日本
フェロクロム	457.8	459.4	576.3	25.5	中国、韓国、台湾
タングステン(t)					
鉱石	268.1	0.7	0.9	30.4	ドイツ
APT	32.8	34.0	19.0	-44.1	米国、日本、スペイン
モリブデン(t)					
鉱石	225	18	37	105.6	オマーン
チタン					
鉱石	740.3	844.1	611.6	-27.5	中国、オランダ、日本
ジルコニウム					
鉱石	13.4	8.1	1.9	-76.5	日本、オランダ、中国
希土類(t)					
希土類金属、スカンジウム及びイットリウム	0.05	0.23	1.45	532.2	イラン、シンガポール
セリウム化合物	26.67	41.37	42.93	3.8	日本、UAE、サウジアラビア
その他化合物	73.83	60.64	392.16	546.7	日本、ベトナム、スペイン
バナジウム(t)					
化合物	28.1	7.7	36.5	375.8	ベルギー、イタリア、イラン
フェロバナジウム	153.7	90.1	281.5	212.2	ベルギー、オランダ、クウェート
アンチモン					
粉	2.3	2.2	1.7	-23.2	米国、パキスタン、オランダ
金(t)					
地金	60.0	142.1	116.9	-17.7	UAE
白金(t)					
地金	0.2	0.0	0.0	-100.0	ホンジュラス

(出典：World Metal Statistics 2017、World Metal Statistics May 2017、Global Trade Atlas、International Trade Centre)

(5) 主要金属輸入量
表 3-5. 主要金属輸入量

鉱種	2014年 (千t)	2015年 (千t)	2015年 (千t)	対前年増減比(%)	主な輸入相手国
銅					
鉱石	1,980.9	1,697.8	1,014.2	-40.3	チリ、インドネシア、豪州
地金	31.2	40.2	36.1	-10.4	DR コンゴ、マレーシア
亜鉛					
鉱石	46.1	0.2	2.0	952.9	トルコ、スペイン
地金	111.9	105.4	235.8	123.7	韓国、豪州、イラン
錫					
地金	8.9	11.1	10.1	-8.9	インドネシア、マレーシア
ニッケル					
地金	58.5	73.8	41.0	-44.4	ロシア、ノルウェー、カナダ
フェロニッケル	19.6	26.1	71.1	172.8	インドネシア、日本、ニューカレドニア

鉛					
鉱石	48.8	17.1	7.1	-58.7	トルコ、UAE、イエメン
地金	112.8	109.0	120.6	10.7	韓国、豪州、英国
鉄					
鉱石	7,371.0	10,065.4	3,596.7	-64.3	南ア、ブラジル、バーレーン
ボーキサイト					
鉱石	1,601.3	1,336.9	1,509.8	12.9	ギニア、パキスタン、ギニアビサウ
マンガン					
鉱石	3,258.6	2,335.4	1,773.3	-24.1	南ア、豪州、ガボン
フェロマンガン	78.5	50.4	84.5	67.7	韓国、南ア、ノルウェー
フェロシリコマンガン	5.1	0.8	1.7	104.2	スペイン、バーレーン、ドイツ
コバルト					
鉱石	0.21	0.07	0.02	-69.8	DR コンゴ
マット	0.72	0.72	0.78	9.1	カナダ、DR コンゴ、ベルギー
化合物	0.11	0.11	0.13	17.5	ベルギー、フィンランド、中国
クロム					
鉱石	252.4	207.5	153.7	-25.9	南ア、オマーン、マダガスカル
粉	1.0	0.7	1.0	43.2	ロシア、英国、フランス
フェロクロム	48.9	103.3	74.9	-27.5	オマーン、南ア、カザフスタン
タングステン					
鉱石	0.2	0.1	0.1	62.3	シンガポール、豪州、スロベニア
APT	0.05	0.04	0.03	-22.4	ウガンダ、中国
モリブデン					
鉱石	7.7	7.3	7.6	3.0	チリ、タイ、メキシコ
チタン					
鉱石	53.8	81.4	82.1	0.9	モザンビーク、豪州、マレーシア
ジルコニウム					
鉱石	44.2	50.8	72.7	43.2	豪州、南ア、ケニア
アンチモン					
鉱石	4.3	4.7	5.1	9.3	タジキスタン、カザフスタン、豪州
粉	1.2	1.0	1.0	0.4	中国、ベトナム、韓国
マグネシウム					
地金	12.3	13.3	14.6	10.3	中国、豪州、香港
希土類(t)					
希土類金属、スカンジウム及びイットリウム	522.5	391.0	449.5	15.0	中国、米国
セリウム化合物	225.3	332.6	329.4	-1.0	中国、日本、英国
その他化合物	689.8	517.9	216.9	-58.1	フランス、日本、中国
バナジウム(t)					
化合物	1,663.7	994.4	2,452.5	146.6	中国、ブラジル、ドイツ、
フェロバナジウム	649.4	370.6	303.4	-18.1	中国、韓国、日本
金(t)					
地金	779.4	1,037.9	655.3	-36.9	スイス、UAE、米国
白金(t)					
地金	2.41	3.19	2.92	-8.4	南ア、ベルギー、米国

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2017, World Metal Statistics May 2017, Global Trade Atlas, International Trade Centre)

4. 鉱山・製錬所状況

表 4-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業(権益：%)	鉱種	生産量(千t)	備考
Khetri Copper Complex (Khetri、Kolihan、Banwas、各鉱山)	Hindustan Copper Ltd. (100)	銅(精鉱中含量)	30.6	2016~2017年度(2017.3末期)生産実績
Malanjkhand 鉱山				
Surda 鉱山				
Gujarat Copper Project				

Rampura Agucha 鉱山	Hindustan Zinc Ltd. (100)	亜鉛(精鉱中含量)	483	2016~2017 年度(2017.3 末期)生産実績
Sindesar Khurd 鉱山		鉛(精鉱中含量)	45	
Rajpura Dariba 鉱山		亜鉛(精鉱中含量)	117	
		鉛(精鉱中含量)	60	
Zawar 鉱山		亜鉛(精鉱中含量)	32	
		鉛(精鉱中含量)	6	
Kayad 鉱山		亜鉛(精鉱中含量)	39	
		鉛(精鉱中含量)	30	
Chikla 鉱山	MOIL Ltd. (100)	マンガン鉱石	1,004.8	2016~2017 年度(2017.3 末期)生産実績
Dongri Buzurg 鉱山				
Beldongri 鉱山				
Kandri 鉱山				
Munsar 鉱山				
Gumgaon 鉱山				
Balaghat 鉱山				
Ukwa 鉱山				
Tirodi 鉱山				
Sitapatore 鉱山				

(出典：各社 Annual Report)

表 4-2. 製錬・精錬所生産状況

製錬所名	権益所有企業(権益：%)	鉱種・形態	生産量(千t)	備考
Tuticorin Complex	Vedanta Ltd. (100)	銅地金	402.0	2016~2017 年度生産実績
Silvassa Complex				
Dahej 製錬所	Hindalco Industries Ltd. (100)	銅地金	376.0	2016~2017 年度(2017.3 末期)生産実績
Chanderiya 鉛亜鉛製錬所	Hindustan Zinc Ltd. (100)	亜鉛地金	435.7	2016~2017 年度生産実績
Dariba Smelting Complex		鉛地金	51.8	
		亜鉛地金	189.9	
Debari 製錬所		鉛地金	92.5	
		亜鉛地金	46.4	
Edayar 製錬所	Binani Industries Ltd. (89.9)	亜鉛地金	24.1	2013~2014 年度(2014.3 末期)生産実績 ※現在操業停止中
Angul 製錬所	National Aluminium Co. Ltd. 100%	アルミニウム	387.4	2016~2017 年度生産実績
Renukoot 製錬所	Hindalco Industries Ltd. (100)	アルミニウム	1,300.0	2016~2017 年度(2017.3 末期)生産実績
Hirakud 製錬所				
Mahan 製錬所				
Aditya 製錬所				
Korba 製錬所	Vedanta Ltd. (100)	アルミニウム	427	2016~2017 年度生産実績
Jharsuguda 製錬所		アルミニウム	786	
Lanjigarh 工場		アルミナ	1,208	
Balaghat	MOIL Ltd(100)	フェロマンガ	9.95	2016~2017 年度(2017.3 末期)生産実績
Dongri Buzurg		電解二酸化マンガン	0.731	

(出典：各社 Annual Report)

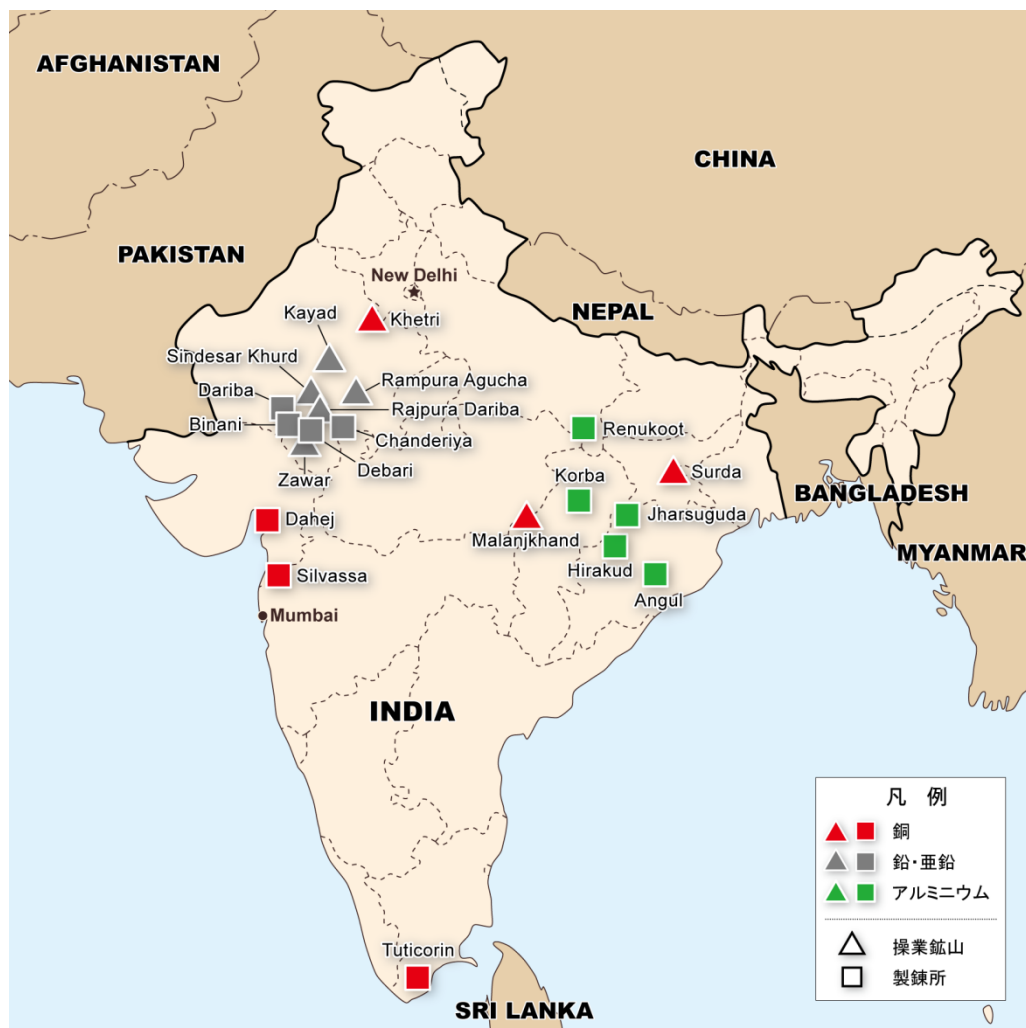


図 1. 主要鉱山・製錬所位置図

5. 探鉱状況

Vedanta グループ傘下 Hindustan Zinc 社は既存の亜鉛鉱山の拡張に加え、Rajasthan 州で Bamnia Kalan 鉛・亜鉛プロジェクトを実施している。同プロジェクトでは、一部の土地の賃貸に関する係争が生じている。

MOIL 社は Maharashtra 州の Nagpur 地域及び Bhandara 地域に 814.71ha の探査エリアを確保しており、うち、約 584ha の範囲でマンガン鉱床探査の許可を Maharashtra 州政府から得ている。同エリアでは、国家地球物理調査研究所 (NGRI) が重力及び磁気探査を完了しており、試錐調査においてもマンガン賦存の兆候を得ている。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

表 6-1. 日本への精鉱及び地金輸出力(グロス量)

鉱種	2014年 (千 t)	2015年 (千 t)	2016年 (千 t)	対前年増減比 (%)
銅 鉱石	14.8	-	-	-
亜鉛 地金	3.7	3.6	2.6	-27.9

鉛 地金	0.7	2.4	0.9	-63.4
鉄 鉱石	1,793.9	811.3	2,158.5	166.0
ニッケル 地金	0.3	0.1	0.0	-34.0
アルミニウム ボーキサイト 地金	195.0 6.3	0.5 15.8	1.0 28.7	100.0 81.9
チタン 鉱石	103.0	125.2	152.2	21.6
マンガン 鉱石 フェロマンガン フェロシリコマンガン	0.12 22.5 164.6	0.13 17.4 129.4	0.10 7.3 106.0	-46.0 -57.9 -18.1
クロム 鉱石 フェロクロム	27.9 51.9	- 40.6	24.2 46.3	- 13.9
タングステン(t) APT 化合物	1.2 8.1	1.0 10.7	1.0 22.6	0.0 112.1
アンチモン(t) 地金 化合物	160.0 40.0	30.0 35.5	60.0 15.0	100.0 -57.7
ジルコニウム(t) 鉱石	1,258.0	816.0	1,132.0	38.7
希土類(t) 化合物	10.8	61.0	285.8	368.7

(出典：財務省貿易統計)

(2) 日本企業による投資状況等

2015年12月、豊田通商と同社の現地法人 Toyotsu Rare Earth India 社は、インド原子力庁 100% 子会社の Indian Rare Earths Limited (IRE 社) とレアアースの生産原料となる混合希土類調達について、2年間の供給契約を締結したことを発表した。この契約により 2016年1月より原料であるモナザイト供給が開始され、IRE 社はネオジム、セリウム、ランタン、プラセオジウムを生産している。

三菱商事は 2015年8月、インド国営製鉄会社 Steel Authority of India Limited から製鉄プラントの建設を受注した。建設は同国建設会社の Larsen & Toubro 社と共同で行われる。2018年初頭の生産開始を計画。

新日鐵住金株式会社は 2015年11月、インド鉄鉱石販売公社 MMTC との間で、鉱石購入契約を締結した。契約期間は 3年。本契約により新日鐵住金は、年間 180~260 万 t を購入することが可能となった。

7. その他トピックス

新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) は 2016年4月、インド鉄鋼省、財務省及び Steel Authority of India Limited (SAIL) と「製鉄所向けエネルギーセンターの最適制御技術実証事業」実施に関する基本協定を締結したことを発表した。これは、製鉄所内のエネルギー管理と運用効率を向上させ、年間約 11% のエネルギーコストを削減するプロジェクトである。事業期間は 2016~2019 年度。

(2017. 11. 15 ジャカルタ事務所 南博志)